

飛躍への決断

企業には、大きく飛躍を遂げる時がある。その陰には、経営者による緻密な現状把握と将来予測に基づいた決断があった。

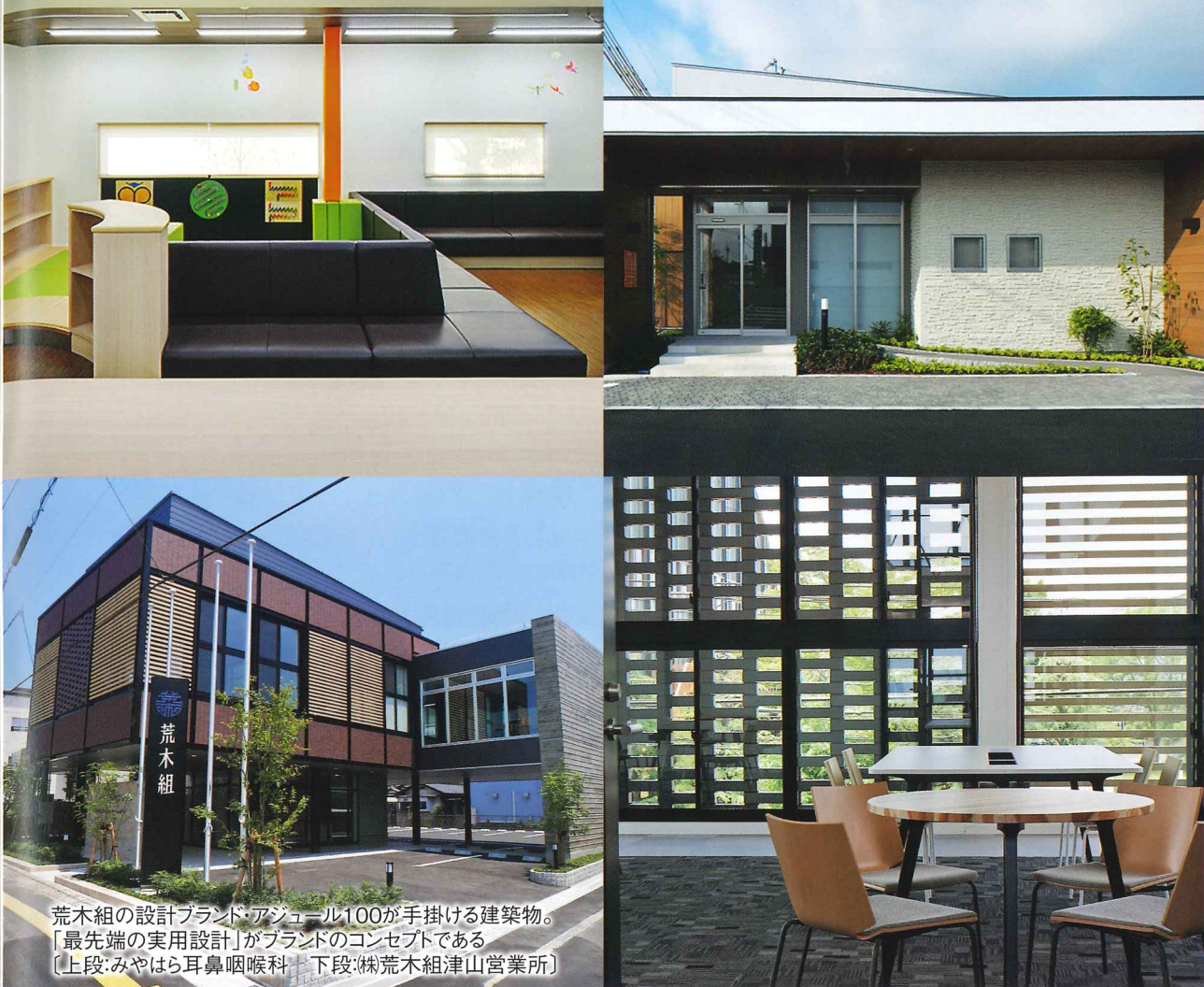
Vol.35

(株)荒木組



常識にとらわれない取り組みで 建設業界に新風を吹き込む

(株)荒木組は、岡山市北区天瀬に本社を構える総合建設業の老舗企業である。創業は大正10年と古く、社歴は100年に迫る。公共工事ではなく、主に民間客を相手とした建築業からスタートした。多くの実績を持ち、神社・仏閣や医療施設など幅広く手がけている同社だが、現社長・荒木雷太氏には、三代目ならではの苦悩があった。



荒木組の設計ブランド「アジュール100」が手掛ける建築物。「最先端の実用設計」がブランドのコンセプトである
〔上段:みやはら耳鼻咽喉科 下段:(株)荒木組津山営業所〕



▲品質にこだわる証の品質旗(左)。自然を相手にする土木工事を象徴した「魂」と、納まりなど細部にこだわる建築部門を象徴した「匠」が光る



▲アラキ・アカデミーの受講風景。「究極の品質管理を目指して」が合言葉である

教科書通りの経営

(株)荒木組は、現社長・荒木雷太氏の祖父が大正10年に創業した。総合建設業は土木工事を主体とする会社が多い中、同社は建築工事がメイン。そのため民間受注の比率が高かった。

荒木氏は大阪大学法学部を卒業後、鹿島建設(株)を経て、平成元年より(株)荒木組に入社した。平成10年には代表取締役社長に就任する同氏だが、実はある強い危機感を覚えていた。

「他の役員と違い、私にはキャリアや実力といった役割を裏付ける根拠がない。ただ血縁だからトップになっている。まして創業者のようなカリスマ性などない。その状態で、社員の信頼を得られるのか。業界で生き残れるよう、会社を率えているのか」。

苦悩の末に荒木氏は、先進の理論に基づく経営学を徹底して学び直すことを決めた。そしてその理論に準拠して経営を行うことを選択する。業務内容すべてに関連する根本的な経営改革になった。そ



▶荒木組三代目社長の荒木雷太氏。現在も最新の経営学を学び続けている。岡山県建設業協会会長、岡山県労働基準協会副会長、岡山県社会保険協会会長なども兼任する

れを象徴するのが、当時から作成され始めた分厚い事業計画書。現在も毎年作り直されている計画書は、単年度分でA3用紙70枚にも及ぶ。

荒木氏は、その場の思いつきや運に頼らない自身の経営方法を「教科書通りの経営」と呼ぶ。しかし彼が始めた取り組みは、いずれも建築業界の常識から大きく離れたものばかりだった。

業界の常識にとらわれない

例えば、営業力の強化である。荒木組は全社員210人のうち、営業セクションに60人超が在籍。同規模の同業他社では20人程度が多い方だという。「公共事業メインの会社ならばいざ知らず、民間のお客様を相手にする会社であれば営業に力を入れるのは当然」と荒木氏。営業マンの教育にも力を入れており、心理学や、担当する施設に関連する法令の学習まで行われている。現在は「建設業を請負業からサービス業」をテーマに、お客様の要望に一層手厚い対応ができるよう取り組んでいる。

次にブランディングへの注力である。荒木組では、工事現場にオリジナルの品質旗を掲げる。旗には建築部門を象徴する「匠」と、土木部門を象徴する「魂」の文字。「安全に工事を終えるのは当たり前なこと、お客様が期待しているのはクオリティ。それを保証しアピールしている」と語る荒木氏。現場を囲う仮設扉やシート、そこに貼るポスターまでトータルデザインし、同社の価値やイメージを道行く人たちにも周知し更に堅固

なものとしている。また、むやみに新しい地域へ乗り出さない。荒木組ブランドが浸透していればより営業もしやすく、さらにその地域内での仕事が増えれば、ブランド力が一層高まるという好循環をもたらしている。

荒木氏は更にこう続ける。「品質の高さをブランディングしている以上、その裏打ちとなる技術の向上には投資を惜しまない」とりわけユニークなのが、アラキ・アカデミーだ。実際の建築現場では、鉄筋や内装、電気工事など様々な専門職種の協力会社と共に工事を行う。そこではそれぞれの会社の職長と呼ばれるリーダーが、職人たちをまとめる。「職長の能力によって、建築物の完成度が大きく左右される」。アラキ・アカデミーとは、その職長たちを対象とした教育制度である。年間およそ300人の職長を本社に招き、管理能力向上を主とした研修を行う。実際の働きぶりも査定した上で、優秀な職長には特別手当を支給すると共に表彰を行う。職長のモチベーションは別人のように向上するそうだ。

「不要な業界の常識やしがらみにとらわれず進んできた」。こうして荒木組は、年々着実に売り上げを伸ばした。「自分と同じ目標を社員たちが共有できていることがとりわけ嬉しい」と荒木氏は言う。

「お出入り」の心意気

同社は働き方改革に関しても先進的な取り組みを進めている。建築業界では、工期に間に合わせるため休日を挟まずに工事を進めることも多い。しかし荒

木組では、施主に協力を要請することで、毎週土日休みとした完全週休2日制の現場を導入。ほかにも現場の仮設トイレを温水洗浄便座にしたり、会社のパソコンの電源を時間制限で切れるようにしたりと取り組みを進めている。それらのアイデアは主に社員側から提案されたもの。「社員たち自身が『世界一働きやすい会社になる』という目標を立てている。実現するための具体的なアイデアも、社員たちが考案している」。

2年前には、施工会社であると同時に一級建築士事務所であることを活かして設計ブランド「アジュール100」を立ち上げた。土地探しから竣工後のメンテナンスまで、客の要望を細かく叶えるトータルソリューションを提供する。「根底にあるのは、お客様の事情を隅々まで理解して問題を解決するという、創業から培ってきた『お出入り』の心意気」。

先進的な取り組みが目立つ同社だが、根底にある経営学に裏打ちされた理論と実践、そして創業時から変わらない心意気を胸に、これからも一層の飛躍をめざす。



本社 岡山市北区天瀬4-33
事業内容 総合建設業(特定建設業)
代表者 荒木雷太
創業 大正10年
資本金 2億円